

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部門長兼薬剤管理副センター長	深津 祥央
参 事	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西井 拓人
主 査	北庄司 敦久
他 スタッフ	薬剤師 16 名 薬剤助手 4 名

＜特色と概要＞

薬剤部門では、調剤、医薬品の供給管理、注射薬の無菌混合調製、服薬指導、病棟薬剤業務、周術期の薬剤管理、医薬品情報管理、治験薬管理、地域連携など、患者の薬物療法を支えるために様々な業務を行っている。

調剤室では、処方オーダー情報と連動したバーコード照合システムや各種調剤機器を導入して、調剤ミスの防止・調剤薬の品質保証に努めるとともに、処方監査・疑義照会を徹底して医薬品の適正使用を推進している。

病棟薬剤師業務では、すべての入院患者について持参薬確認を行い、医師・看護師等と協働して入院中の薬物治療の有効性・安全性をモニタリングしている。患者への服薬指導を行って服薬アドヒアランスの向上に努め、退院時服薬指導により患者の服薬情報を施設間で切れ目なく繋いでいる。

外来患者の薬物治療における保険薬局との情報連携にも力を入れており、薬局薬剤師が患者から聞き取った服薬状況や副作用発現状況、服薬に関する問題点・不安などを服薬情報提供書（トレーシングレポート）で処方医師にフィードバックする体制をとっている。副作用の早期発見・早期対応に繋がる情報提供もあり、外来薬物治療の安全管理に貢献している。

当院で組織されている各専門医療チーム（感染対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム（PST）、認知症ケアチーム）の構成員として積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。また、糖尿病教室や生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を担当している。

＜実績＞

病院運営の一環として、全面院外処方箋発行を行い、病棟薬剤師業務の充実に取り組んでいる。2024年度月平均の院外発行率は92.7%（時間内処方の集計では98.5%）である（グラフ1）。

一般病棟、ICU、EICUに薬剤師を配置して病棟薬剤業務実施加算の体制をとっている。薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数は、月平均患者数748名、指導件数881件（退院指導299件）で推移している（グラフ2）。

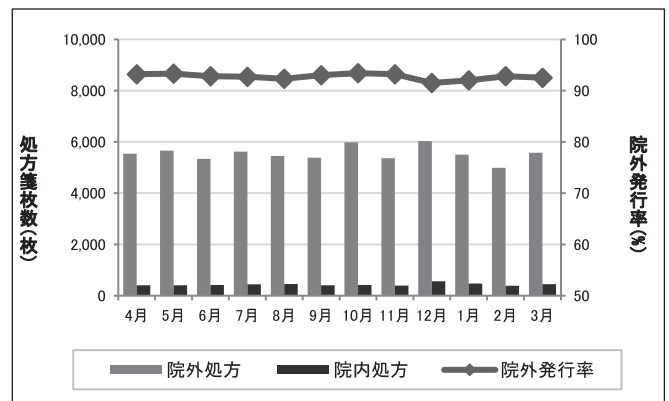
また、無菌製剤処理料の対象となるTPN製剤および免疫不全患者に用いる点滴の調製を行うとともに、算定対象外ではあるが一般の点滴を含めた注射薬の無菌混合調製を行っている。2024年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均803本となっている（グラフ3）。

次に、抗がん薬に関しては、外来・入院の全患者について、抗がん薬レジメンの一元管理と無菌調製を実施している。2024年度における実績は月平均患者数478名、調製本数は659本となっている（グラフ4）。また、外来化学療法センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者への服薬指導を行い、多職種と協働して外来腫瘍化学療法診療料や連携充実加算に関する業務を行っている。

さらに、患者サポートセンターと病棟において、全ての入院患者における薬剤師による持参薬の鑑別ならびに投与計画の提案を行っている。2024年度における実績は月平均756人、4,426剤となっている（グラフ5）。

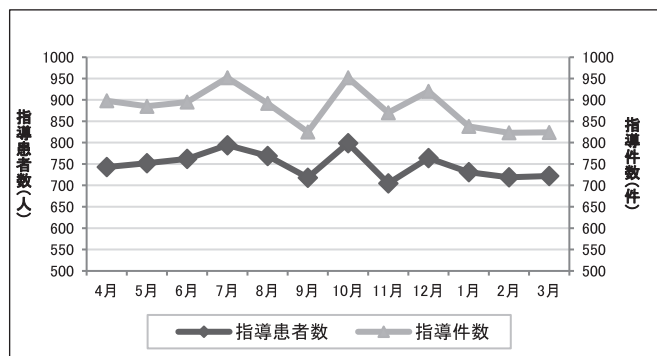
（グラフ1）2024年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	93.2	93.3	92.8	92.7	92.3	93.0	93.4	93.2	91.5	92.0	92.8	92.5
院外処方	5,535	5,656	5,337	5,617	5,448	5,382	5,980	5,364	6,030	5,499	4,989	5,576
院内処方	407	407	416	445	456	408	421	393	559	476	387	452



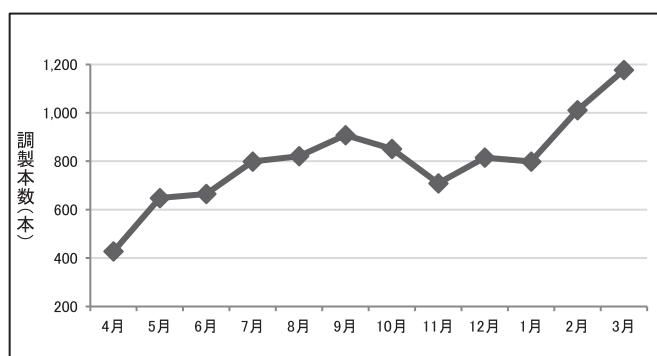
(グラフ2) 2024年度服薬指導実施人数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	743	752	762	794	769	718	799	705	764	731	719	722
指導件数	898	885	895	952	892	825	952	870	920	838	823	824



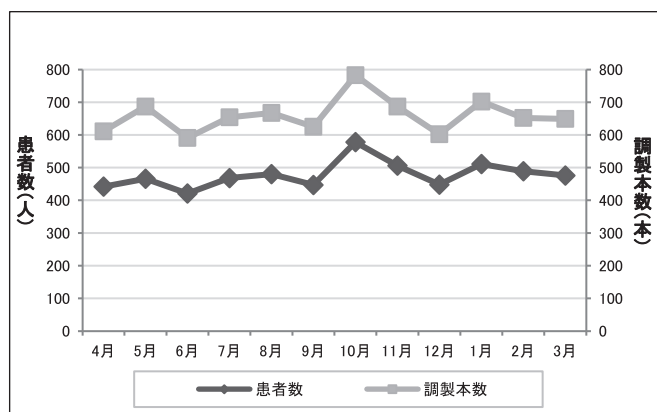
(グラフ3) 2024年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	428	648	665	799	821	908	851	709	815	799	1,011	1,177



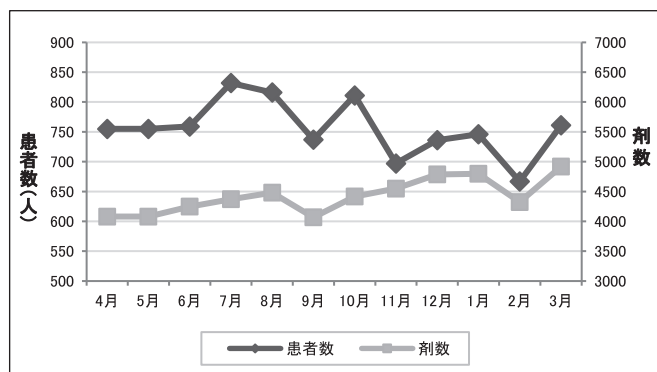
(グラフ4) 2024年度抗がん薬調製患者数・調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	442	466	421	468	480	447	578	506	448	511	489	476
調製本数	611	687	591	654	667	625	783	687	602	702	652	649



(グラフ5) 2024年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	755	755	759	832	816	737	811	697	736	746	667	761
剤数	4,079	4,079	4,247	4,371	4,481	4,068	4,416	4,549	4,786	4,797	4,324	4,919



＜今年度の反省と来年度への抱負＞

今年度は人員が限られる中、職員間の協力体制や業務整理、薬剤助手の採用によって、調剤をはじめとする中央業務の体制、病棟薬剤業務実施加算の体制(各病棟に専任薬剤師を一定時間以上配置する体制)、各専門医療チームに参画する体制を維持し、有効かつ安全な薬物療法の提供に貢献できた。また、昨年度から継続して医薬品の定数発注の範囲を拡大し、発注業務の効率化を進めることができた。

来年度は、4月より入職する新人薬剤師の教育に薬剤部門全体で取り組む。そして、服薬指導や各病棟への薬剤師配置に関して、十分にそのニーズに対応できるよう業務体制の充実を図る。さらに、業務整理を進める中で、薬剤助手の採用は大きな効果を発揮しているため、追加採用を病院に働きかけ、薬剤師が専門性をもって介入すべき業務を広げていく。



医薬品投与について医師と協議する病棟薬剤師



調剤室